

原子力リスク研究センター (NRRC) 第 34 回 技術会議 議事録

1. 日 時 : 2021 年 5 月 6 日 (木) 15 : 00 ~ 17 : 00
2. 場 所 : Web 会議 (電力中央研究所 原子力リスク研究センター 会議室)
3. 出席者 (順不同、敬称略)
 - 主査 : 植田 (NRRC)
 - 委員 : 牧野 (北海道電力)、多田 (東北電力)、山本・武田 (東京電力 HD)、尾崎・梅木 (中川代理 : 中部電力)、福村 (北陸電力)、宮田・吉原・岩森 (多田代理 : 関西電力)、山本 (中国電力)、渡辺 (四国電力)、本田 (九州電力)、山口 (日本原電)、大柿 (日本原燃)、石倉 (電源開発)、河村 (東芝)、滝井 (日立 GE)、池田 (三菱重工)、中熊 (電事連)、小澤 (電工会)、西村 (倉田代理 : 原安進)、示野 (ATENA)、高橋・古田・朝岡・西・岩島・喜多・稲田・山本 (NRRC)

4. 議事概要

(1) 2020 年度 NRRC 研究成果について

○NRRC より、2020 年度原子力リスク研究センターの主要研究成果として、「人間信頼性データベースの開発」、「実機プラントを対象としたレベル 1・レベル 2 津波 PRA 技術」、「米国 SSHAC ガイドに基づく確率論的地震動評価の信頼性向上」について報告がなされた。

(主なコメント ◆外部委員、◇電中研委員)

- ◆「実機プラントを対象としたレベル 1・レベル 2 津波 PRA 技術」に関して、この開発された成果を実機に適用するにあたって、どのような課題があるのか。
- ◇研究成果を実機適用する際の技術的課題は 2 つの種類がある。他プラントで実機適用する際に作業ベースで必要になるという意味での課題と、中長期的にもう一段さらに高度化するという際の課題の 2 つである。基本的には、津波 PRA のツールとして電力各社に使っていただける手法や、モデル構築の考え方をお示しできたと考えている。今回、MAAP5 というシビアアクシデント解析コードを使っているが、現在、電力各社では、MAAP4 で審査対応をされているので、MAAP4 から MAAP5 に移行するという課題が作業ベースとして端的なものである。
- ◆「米国 SSHAC ガイドに基づく確率論的地震動評価の信頼性向上」の Region の検討は合理的にやるための方法と理解されるが、各サイト特有の検討の方法が縛られるようなことがないのかと心配もある。そのため、Region を評価することのメリットだけでなく、デメリットも含めて総括的な検討をしていただきたい。

(2)NRRC の活動状況について

○NRRC より、「RIDM のための技術基盤の活用及び改善に向けた取り組み」、「地震 PRA 高度化サブ WG の活動状況について」の報告がなされた。

以上